学 位 論 文 審 査 の 要 旨

		要　　旨
学位申請者	河田　真理 【比較社会文化学専攻　平成２０年度生】	本研究は、キリスト教のダンス実践である「ワーシップダンス」を貫く「関係」の具体的様相を「両義性」という概念を用いて明らかにすることを目的としている。第1章では『聖書』とその関連資料から「神－人」関係と「人－人」関係とは互いに呼応し合う関係にあることを見出し、第2章以降は申請者が欧米で行った3件のフィールドワークから実践にみられる相互行為と踊り手の内的体験に関する語りの分析によって、踊り手がその身体を通して他者との「関係」をどのように生き、またその「関係」が実践にどのようにあらわれるのかについて考察している。 その結果、現代ワーシップダンスにおける「つながり」とは、「踊り手－神」「踊り手－他者（外界）」との関係において、「動かされつつ、動く」というように、受動的感覚と能動的感覚とのせめぎ合いによる自己への志向と外界への志向との両義的なプロセスを通して紡ぎだされるものであり、それはまさに、自己・他者・神との関係における「調和した動き（在り方）」を模索する行為そのもの、すなわち、自己・他者・神との関係における真に「調和した生き方」の模索であると結論づけている。 本論文に対する審査は二回行われ、第一回審査会では、海外で複数回のフィールドワークを行い、そこでの参加観察とインタビューによって貴重なデータを得、それらを丹念に分析したオリジナリティの高い論文であると評価された。しかし、両義性の概念が曖昧であること、インタビューデータ分析にSCATを用いた理由、そこでの概念的枠組みの用い方の妥当性、現代ワーシップダンスの起こりの根拠が論じられていない事等が指摘された。第二回審査会では、以上の指摘に対し適切且つ妥当な加筆修正が施されていることを確認した。そして、更にインタビューデータ確認の必要性が指摘され、その確認・修正を経て、平成26年２月24日に開催された公開発表会では、参会者と活発な質疑応答があり、公開発表として満足な結果を得た。最終試験での質疑応答においても、真摯な姿勢での満足すべき応答が得られ、研究に対する理解力と学力が十分であるものと判定された。 以上の結果を総合して、本審査委員会は全員一致で、学位申請者河田真理が最終試験に合格し、人間文化創成科学研究科の学位、博士（学術：Ph.D. in Dance Studies）として認定するに値すると判定し、合格とした。
論 文 題 目	キリスト教ワーシップダンスにみる両義性 ―踊り手の内的体験と相互行為に着目して―	
審 査 委 員	（主査）　教　授　柴　眞理子	
	教　授　猪　崎　弥　生	
	教　授　松　崎　毅	
	教　授　佐々木　泰　子	
	名古屋大学 教　授　大　谷　尚	
インターネット公表	○　学位論文の全文公表の可否（ 可 ・ 否 ） ○　「否」の場合の理由 ア．当該論文に立体形状による表現を含む イ．著作権や個人情報に係る制約がある ウ．出版刊行されている、もしくは予定されている エ．学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている オ．特許の申請がある、もしくは予定されている ※　本学学位規則第２４条第４項に基づく学位論文全文のインターネット公表について	